

## 団体意見交換会実施報告書

開催日時	令和3年10月28日(木) 10時～
開催場所	南コミュニティセンター
団体名	十和田地区保育研究会
出席議員	<p style="text-align: center;">民生福祉常任委員会委員</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">[</span> <div style="text-align: center;"> 江渡委員長 山田副委員長 豊川委員 小川委員  工藤委員 氣田委員 小笠原委員 </div> <span style="font-size: 2em;">]</span> </div>
役割分担	代表者：江渡委員長 記録係：山田副委員長 氣田委員
主な意見・ 提言・要望等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会の内容は別紙のとおり。</li>   <li>・幼児教育アドバイザーの設置については、民生福祉常任委員会で調査することにしたい。</li> </ul>

## 1. 保育施設周辺道路の安全確保について

- (1)消えかかっている白線や歩道の整備
- (2)キッズゾーン、カラー塗装、ポール設置他
- (3)「優しい運転」の啓発他

### 保育研究会

- ・ 6施設が改善の急を要する施設だった。歩道を作るのが難しくても、白線を引くことでお散歩も安心してできるようになる。
- ・ 横断歩道前で停車する車が少ない。お散歩していると脇によらないように配慮してくれる車もある。
- ・ 十和田市はセーフコミュニティをしているが、子供に優しい運転を心がける、運転をしてもらえる、お金のかからない活動をしていくのもその1つとなる。
- ・ 2年前散歩の日を企画した。交通安全に寄与できる活動は、昨年、今年はコロナ禍で出来なかったが、来年は行いたい。

### 議員

- ・ 子供を守る・育てる、皆さんの思いを深く感じている。
- ・ 教育、福祉、幼児教育、それぞれの立場で行っているため、横のネットワークの必要性は理解している。
- ・ 出来るところから、少しずつ出来るように1つ1つ解決していきたいと思っている。
- ・ 施設の場所によっては歩道を設置できない場所もある。
- ・ 要望をすべて解決できないのが残念ですが、少しでもやっていきたい。
- ・ 歩道を作ることは時間も費用もかかるが、白線の引き直しなど、まずはお金のかからないところから、1つ1つ解決していきたい。

## 2. 幼児教育アドバイザー設置について

- (1)教育委員会が指導監督し、研修をしてほしい。
- (2)幼児教育アドバイザーを設置して指導監督を行ってほしい。
- (3)八戸市総合保健センターのような、横の連携が繋がっていて、全て一ヶ所で完結出来るような体制を作ってほしい。

## 保育研究会

- ・子ども・子育て支援法が成立したが、十和田市では保健センターと教育委員会と各施設が独立していて、情報交換ができていない。
- ・八戸市のこども支援センターでは、小学校の校長をされた方、幼稚園の園長をされた方、大学で幼児教育を専門にしている方等がアドバイザーをしている。
- ・施設間では垣根があって幼稚園・保育園・認定こども園は教育委員会との交流がほとんどない中、八戸市の取り組みは先進的である。
- ・幼児教育アドバイザーは保育施設をまわって指導するのが仕事だが、教育委員会の指導主事では指導が出来ない仕組みになっている。
- ・民間の幼稚園などは個々に問題に当たらなければならない。情報も自分たちで集め、対応を考えていくため心配もある。
- ・幼児アドバイザーの重要性について、国の方針として設置することが求められている。
- ・すぐに発達障害とする訳ではないが、小学校は特別支援学級と専門の先生がいるが、幼児の場合はその専門の先生がいない。
- ・5歳児健診を全ての子供に適用されればいいが、予算的にも難しいということなので5歳児相談という形で少しずつではあるが改善されてきている。
- ・行政では、園が発達障害などを把握しているだろうから健診を行わなくてもいいという姿勢であり困っている。
- ・これまで経験したことがないような支援を必要とする子供の割合が増えている。勉強を各施設で行っているが、そこもアドバイザーがほしい要因である。
- ・このような議員や行政との交流会が負担だったり、毎月の定例会に参加できないという理由で、十和田地区保育研究会に、現在は16施設しか参加していない。市内の施設に参加して頂けるようにお声がけをしてほしい。

## 議員

- ・幼児教育アドバイザーになる方を十和田地区保育研究会などから出して行って、段階を経て行政と手を組む事ができればと思った。

## Q&A

- ・幼児教育アドバイザーは、どのような仕事なのか。  
→資格ではなく、地域の幼児教育を統括する方。1番の仕事は、各施設をまわって指導するのが主な仕事。
- ・幼児教育アドバイザーは、県内では八戸市のほかにあるのか。  
→八戸市しか行っていない。画期的であり八戸版「ネウボラ」と言える。
- ・障害がある子供の保育について、今の状況は。  
→特別支援については喫緊の課題だと考えている。18施設の保育園でアンケート調査をしたところ、年長の児童の15%が、行動が気になる子供と分類された。

- ・毎日接している先生が、園児の発達障害を心配した場合はどうしているのか。
- 家庭に伝えるが、なかなか受け入れてもらえない。時間がかかる。対応が遅れ小学校入学前に慌てるケースもある。

### 3. 保健センター機能と保育施設との協力・共有体制について

- (1)保健センターが、子育てに困難を抱える家庭と保育施設を結びつけ、各保育施設が『かかりつけ保育施設』として機能してはどうか。
- (2)保健センターが、妊娠、出産、育児に関する全ての窓口として機能してほしい。また、里帰り出産などの対応も一括して対応してほしい。
- (3)その他要望
  - ①一時預かり、休日保育、病児保育等を行う施設を、検索できるようにしてほしい。
  - ②3歳児未満児の一時預かり利用料を補助してほしい。
  - ③施設に自力で通所出来ない家庭に対して支援、補助してほしい。
  - ④保健センターに、児童発達支援管理責任者を置いてほしい。
  - ⑤保健センター所属の保健師に幼児保育施設訪問を行ってほしい。
  - ⑥5歳児相談を全児童対象にしてほしい。
  - ⑦土日も保健センターを開けてほしい。(日曜日に相談出来ない、虐待は日曜日が多い)
  - ⑧子供との接する時間を確保するため、親の長時間労働をなくしてほしい。(働き方改革)
  - ⑨『訪問保育ステーション』のようなものがあってほしい。

#### 保育研究会

- ・電話1つで相談できる場所が保健センターであり、日曜日でも相談できる場所が必要。
- ・相談窓口としての保健センターはいつでも、誰でもできるように開かれた施設にしてほしい。
- ・昨年虐待があった家庭は、休日保育をしている施設があっても車がないため通園できない家庭だった。
- ・里帰り出産の際に、1、2か月だけでもサポートできる施設もある。
- ・保健センターには、頼れる保育施設を案内したりしてほしい。
- ・一時預かりの料金の補助があれば助かる。回数がかさむと困る家庭もある。

#### Q&A

- ・日曜日も一時預かりができればと考える。保健センターもだが、保育所も日曜日に開けてはどうか。

- 休日保育を行っている施設はある。ただし、昨年虐待があった家庭は、休日保育をしている施設があっても車がないため通園できない家庭だった。
- ・ 土日保健センターを開けてほしいとう、気持ちは理解できる。
  - いろいろな支援が必要なお母さん方は、難しい問題を抱えている。
- ・ 相談で解決するのか。会議をする場が必要だと考えるがどうか。
  - 民生委員もそういったことにすごく関心があり、高齢者の事情は横のつながりがある。子供の虐待についても情報共有や連携してやっていける体制が欲しい。
- ・ 虐待は保育園や幼稚園で発覚するのか。
  - 様々あり、虐待は、いろいろな要因が重なって起こるケース、知らないところで起こるケースがある。スーパーに置き去りにする、パートナーからの虐待、貧困など。
- ・ 保健センターは困難を抱えている家庭を把握しているのでは。
  - 保健センターの機能について、妊娠・出産・育児についてトータルで教える、窓口になってほしい。

#### 【全体を通して議員から】

- ・ 子供を守り育てるといのは絶対であり、皆さんの思いは十分に伝わりました。今回の要望を全て実現できたら、日本一の十和田市になります。
- ・ 日曜日の保育を当番医のように、順番に出来たら良いのではないのでしょうか。
- ・ 発達障害の子ども一人一人に合った保育が出来るよう、いろいろな案件について、行政、保育所などで協議できる場が出来ると良いのではないのでしょうか。
- ・ 出来ることから取り組んでもらえるよう、関係各位に要望致します。